（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370200984		
法人名	社会福祉法人ま心苑会		
事業所名	グループホームま心		
所在地	熊本県八代市敷川内町2243番地2		
自己評価作成日	令和元年11月27日	評価結果市町村受理日	令和2年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/43/inndex.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和元年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様が安心して過ごされる様にスタッフ全員協力して、家族とも協力頂き健康面も気を付けている。季節ごとの行事を取り入れ、食事も利用者が好まれる食事作りに取り組んでいる。当苑の畑で取れた新鮮野菜を調理して喜ばれている。運営推進会議は活動を中心に活き活き取り組んでいます。天然温泉の入浴に利用者様肌も綺麗にされ気持ちよく過ごされています。天気の良い日はスタッフの明るい笑顔と利用者の笑い声が聞かれ、暖かいグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設から16年もの歴史は、地域密着型事業所として家族や地域など多くの支えに守られ、入居後も地域の一員として人々と関わりながら生活する入居者の姿を見る事が出来る。運営推進会議を地域交流の一つとして、情報発信や地域情報の収集の機会等多方面からの意見を運営に反映させながら入居者参加型の会議として様々なプログラムを企画し、実践している。グループホーム連絡協議会の活動も盛んに機能しており、テーマを決めた月毎の研修会や、包括との協働研修会で職員は自己研鑽に努め、入居者の支援にフィードバックしている。職員の業務分担に畑担当者がいるのもホームの特徴であり、山の様に実ったえんどう豆は待ち構える入居者のテーブルに積まれ、我が家で作業するがごとくせっせとさやから外される様子が写真からも伝わり、日々の暮らしの一コマとして読み手を笑顔にしている。特別なことより何気ない日常を提供し、今後も入居者支援に邁進されることを期待したい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：グループホームま心

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時、ま心の理念「安心して生活が出来る。ま心で接する。信頼・・・利用者・家族・地域との関係を築いていく」を唱和し理念に基ずき利用者に接している。	"安心"して生活できる。"ま心"で接する。"信頼"利用者、家族、地域との関係を築いていく。の三項目を開所時からの理念としている。この一年は日々の業務に追われ、ゆっくり立ち返る時間がなかったとしており、理念にある"安心"一つにしても、それぞれの入居者にとって安心できる生活は異なり、個々の入居者の安心を追求していくことが、理念の実践になるとしている。	開所以来ホームにしっかりと根付いた理念であるが、入居者の生活にどれだけ反映されているかなど、月の会議等で振り返りの機会が必要と思われる。また、年度初回の運営推進会議等で地域へ向け、改めて理念について啓発されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校・幼稚園・お寺の住職の慰問で交流させて頂き、春・秋の彼岸供養楽しみにされている。又家族会の清掃活動で利用者の皆さんも一緒に清掃作業に取り組まれている。	職員は入居者が地域へ出て人々と交流する機会を持ち、4月の花見には9名揃って外出し、商業施設では入居者自身が衣類の選択をする場を設けたり、ホームセンターの植物コーナーを身近な花見として活用するなど工夫している。外出先では人々と言葉を交わし、地域の行事や自然に触れることで、地域の一員としての自信につないでいる。運営推進会議を利用した各プログラムには、地域から多数の協力が得られており、法人施設も地域の一つとして敬老会などの行事に共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進会議を開催し、昨年度から身体拘束等適正化の為の検討する委員会を開催し、地域の老人会・地域の方・家族と話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H31年度、地域の消防団員、消防署員も交え防災について学ぶ等取り組みを行っている。	2ヶ月毎の定期開催によりホームの現状を地域に発信し、参加者からの情報をホーム運営に反映させている。毎回、参加者が多いのがホームの特色であり、行政や地域代表者、家族はもとより、入居者が全員出席し、ありのままを見てもらいながら、参加者と一体となって進行している。会議の中で「身体拘束適正化委員会」を設け、拘束についてホームの方針を伝え、実例をあげながら参加者の意見を仰いでいる。会議を利用し入居者との体操やミニ運動会、夏場のソーメン流し、消火訓練等多彩なプログラムを企画し、参加型の会議を展開している。	前回の外部評価結果を受け、推進会議の中で実施した消防訓練には地元の消防団にも応援を依頼しており、早急な対応が評価される。地域密着型事業所として、今後も地域との協力体制を継続されることが期待される。また、会議内容は面会時に個別に伝えているが、玄関先に議事録を開示したり、併せて外部評価結果についても公開されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当の方に運営推進会議に参加頂き、インフルエンザ蔓延時の連絡も密に取り合い協力頂いている。	運営推進会議に毎回行政担当者が参加し、同席する入居者の様子を間近に確認することでホームの現状はしっかりと伝わっているものと考える。インフルエンザの蔓延時には推進会議で伝え、行政などへの報告を行い包括と協働で研修会なども開催している。同業者とは、"グループホーム連絡協議会"を通し、互いの情報を交換し、毎月研修会を実施している。管理者は必要によって直接役所を訪れ、相談や質問に応じてもらいながら良好な関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH八代部会で学んだ事や身体的拘束等の適正化の為の適正化を検討する委員会で話し合い、周知徹底し、ケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束はおこなわないことを前提としており、ホームの指針を掲げ包括やグループホーム連絡協議会での研修会を通じ、職員は共通の認識を持って入居者のケアにあたっている。ホーム内でも疑問に感じたり、気になる点があればその都度話し合い、運営推進会議で実例を通し、参加者に意見を仰ぎながらケアに反映させている。スピーチロックについて、時折気になる言葉が聞かれるとして今後の課題と捉えている。	言葉は入居者に馴染みのある八代弁などを使い対応しているが、忙しい時などには口調が強くなることがあると職員が語っている。気づいた時点で互いを注意し合う関係や、ケアに入る前の朝礼などで心を一つにすることも必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的拘束等適正化の為の対策を検討する委員会でもスピーチロックが重視され、声掛けに注意しケアを行う様努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護はGH八代部会で学習しているが昨年度は熊本で起きた事件で特別研修会もあり、職員にも学んでもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時・料金改定時・家族の皆さんに説明し同意書にサイン・捺印頂き理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会や面会時、推進会議参加のおり、要望・意見など伺いながら、利用者のケアについて職員とも話し合いながら反映している。	法人全体の家族総会や運営推進会議、普段の面会など家族が来所する機会は多く、忌憚のない意見を求めているが、お礼の言葉などが多く、改善につながるような意見は得られていない。本年度も家族会によるホームの清掃活動が行われており、意見を求めたものの引き出しには至っていない。ホームでは入居者の私物購入に預かり金を受けているが、3ヶ月ごとの収支報告により了承を得ている。入居者の意見や要望は普段の生活の中から聞き取り、支援に反映させている。	今後も引き続き家族の意見を収集し、運営に反映させていかれることを期待したい。また、今後家族から出された意見や感謝の言葉については記録に残し、聞きたい内容を絞りながらアンケートをとることも検討願いたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや日常、常に職員から意見・提案を聞いて運営に反映している。	職員は朝の申し送り時を利用し、気づきたことを何でも出し合うようにしている。管理者自らも夜勤業務に入り、昼夜の入居者の状態を把握することでプランに反映している。業務改善やケア向上につながる意見には全員で話し合い、改善策を見出し、物品購入などについては法人に声をあげている。現在、職員体制が万全とは言えない状況であるが、新たな入職者も決まっており、一層のケアの充実が期待される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績では、人事考課の調査もあり日頃の業務・勤務対応等把握し、勤務時間外の手当ても考慮されている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で定期的に研修会に参加し報告を行っている。スキルアップも目標に各資格への意欲も伺える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代GHブロック会での参加で各同業者との研修会や交流会に参加し各事業所との交流を深め問題点等の相談も出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の希望・要望を聞き出来る限り本人に寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や利用者に、どの様に生活したいか等面会時やサービス担当者会議の時聞き、随時相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員・利用者・家族から情報収集を行い。本人が必要としている支援を家族とも相談し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を出来るだけ活用し歩行や体操・塗り絵に参加され、調理の下準備等の手伝いして頂き、洗濯物干し・畳も皆さん張り合って手伝われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態把握し、家族と連絡取り合い、病院受診・運営推進会議・家族会清掃活動等は家族の協力を頂いている。毎月、利用者への近況報告し、GH便りは2か月に1回は発行している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の面会も多く、法事やお盆等帰省され家族様と接して居られ外出・外食等楽しまれている。	家族の面会は多く、来所時にはリビングや居室で入居者とのひと時を過ごされている。病院受診後の外食を楽しみにされる入居者や法事・盆・正月の日帰り帰省などに家族の協力が得られている。入居者に馴染みの菜園は、四季折々に野菜の育ち具合を腰を下ろして見学し、おやつを摂りながら収穫時期や使い道に花が咲いている。退所された家族が今でも立ち寄られるなどこれまでの関係性にも心を配っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で一人の居られると仲の良い方が近くに来られ話されたりほほえましい場面も見られています。レクレーション・お手伝い・外食・ドライブ等皆さんと一緒に参加されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族の方が時折訪ねて来られたり、偶然外でお会いした時も話しかけて下さり懐かしい思い出話が出来ている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や日常生活の中で言葉やきずきを各担当者からADL調査・長谷川式等モニタリングで情報提供も把握する様努めている。	職員は入居者との普段の会話にしたいこと、行きたい所、食べたい物などを盛り込み思いを引き出している。中には意思疎通の難しい方もおられるが、ホームでの暮らしぶりから推察したり、家族など周囲の関係者から話を聞きながら、本人の思いに近づく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所直前の情報収集もしているが入所後の新たな発見も多く、職員と意見交換を開催しケアの見直しも共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタル測定し体調に変化が無いか申し送りを記録に残し状態変化が見られた場合、家族に急ぎ連絡とる様努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所されたばかりの利用者は1～2か月でケアの見直しを行い、新たなニーズへの対応を家族の協力も得ながら行っている。	本人・家族の意向を重視し、入居者担当の職員の声を尊重しながらプランを立案している。管理者が昼夜を問わず業務に入ることで、入居者の状況を詳細に把握しており、職員と共有しながら半年から1年を目安に評価し（状態によってはその都度）、支援内容の見直しにより変更や継続を決定している。現在、ケアマネジャーが介護休暇にて不在の状況であるが、全員一丸となって入居者を支えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録は個人記録で行い、過ごされた様子を把握しやすく支援経過記録にまとめている。各担当者がADL調査へ記録し職員間の情報共有が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調に合わせて家族に連絡を密にし病院受診等協力を得ている。又利用者の急変時は職員が付き添って行く。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月ごとに理容室より散髪を受けられたり、運営推進会議に老人会・消防署員・地域の消防団員等参加頂き、安全で豊かな暮らしの為に支援して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力の下、かかりつけ医への定期受診もされている。協力医（内科・歯科）受診でも必要に応じ往診依頼等も出来ている。受診困難になられた場合嘱託医に変更もされている。	現在はほとんどの方が嘱託医による往診や、他の医療機関へ家族が受診に付き添い結果を共有している。歯科についても往診や家族により受診がなされている。職員は食後の歯磨きを個々に応じて支援し、歯ブラシも毎月交換することで、適切な口腔ケアにつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護師は居らず母体の（特養）看護師に相談や処置等も依頼する事もある。状況に応じ救急搬送を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には本人の状態や家族の意向をふまえ主治医と連携を取り管理者・ケアマネと相談し行っている。入院中も定期的な面会や家族とのコミニュケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う対応等や入所時に説明しているが、ホームや施設の運営方針も踏まえて家族の希望を伺いながら方向性を検討している。	重度化・終末期支援については、ホームにできるところまで支援することとしており、入居時と必要に応じて家族の意向を確認している。この一年、ぎりぎりまでホームで過ごされた事例がある。現在、特養への申し込みをされている方もおられ、今後も、本人や家族の望まれる最終について、相談には丁寧に応じていきたいとしている。看取りに関する研修会については、地域の部会でも開催されており、参加した職員よる復講により共有が図られている。	今後も「安心して生活できるホーム、ま心を大切にした支援」に努めていかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時には、管理者へ報告し職員間で手順等も話し合い、実践されている。緊急連絡網で職員への連絡及び調整が付くよう配置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震等に関して併設の特養と合同で年2回訓練を開催している。運営推進会でも地域の消防団員さんを交えて訓練し、協力体制を築いている。今後も協力が必要不可欠である。	今年度は5月に日奈久消防署と地元消防団の参加を得、運営推進会の中で消火訓練と、11月に地震による火災を想定した訓練が行われている。ホーム内には、防災マップが掲示され、有事の際の避難場所は隣接する特養の2階となっている。備蓄は法人で3日分と、ホームでも熊本地震発生後に開催された研修会を参考に、米と調味料を多めに確保してる。	災害訓練は運営推進会議の中で実施されているが、参加されていない家族へも呼びかけることも良いと思われる。また、法人を含め備えている備蓄品については、リストを作成し、全職員が確認できるよう掲示など検討されることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損なわない様に言葉使いや対応を常に考えて利用者と接する様努める。	入居者への尊厳やプライバシーに配慮した対応について、ホーム内で共有を図るほか、守秘義務の徹底について、法人による指導も行われている。広報誌には、毎回個人情報の使用について承諾を得ていることが記されている。呼称はさん付けで対応することとしている。居室へ入る際は、声掛けやノックの後、入室している。誕生会もその方の祝いとして当日に行うことで、家族も喜ばれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者と目線を合わせ寄り添い自然と話が聞ける環境を職員全員で出来る様取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を見ながら天候の良い日はドライブ・散歩・買い物・外出支援を計画している。室内では体操・カラオケ・ゲーム・塗り絵等好まれ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時に洗面し、整髪も自分でされる方は身だしなみをして頂き、洋服は入浴時にその方にあった季節に合わせ準備している。自分で出来る方は自分で出来られるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼困難な方には刻み食提供し、工夫して食欲を出されるようにしている。野菜の仕分け・入りこのはらわた取り食後のお盆拭き・テーブル拭き・食器洗い等出来られる作業をお手伝いして頂いている。	献立は職員が肉と魚のバランスや、汁物の種類、日曜日にサンドイッチを入れるなど工夫しながら作成している。イベント食では松花堂弁当の器を使用したり、運営推進会議の中で開催されるソーメン流しでは、職員の家族の協力により竹の流し台が準備されるなど、季節の食事を楽しんでいる。食形態は個々の嚥下力に応じて、二度炊きやお粥を準備しており、必要な介助が行われている。入居者は収穫した野菜の下ごしらえやテーブル拭きなど、それぞれの出番に精を出されている様子が、広報誌の写真からも確認された。	職員は持参した弁当などを摂っているが、今後は入居者と思いを共有しながら味や量の確認をおこなうためにも、1名でも同じものを摂ることができないか検討されることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事献立も重ならない様、栄養バランスを考えながら量も一人一人変えて提供している。又水分不足にならない様レクレーションや外出後等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し食前のパタカラ体操や食後の口腔ケアは清潔保持に努めている。夜間は義歯を洗浄液に浸け、介助要する方は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は利用者の排泄パターンを把握し緩下剤を使用したり、水分強化・歩行促したりし排泄がスムーズにいく様支援し排泄が困難な場合は摘便施行する事あり。	排泄の状況は申し送りなどでタイムリーに職員間で共有を図り、日中はトイレでの排泄を個々に応じて支援している。現在、リハビリパンツを使用される方が殆どであるが布パンツで過ごされる方も2名おられる。夜間のみ（日中も時々あり）使用される方のポータブルトイレは、毎回の洗浄と日曜日には徹底した掃除を行い、昼間は日光干しにより清潔に管理している。排泄用品を家族が購入し持参される場合は、排泄の現状を伝え適切な用品をアドバイスしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつで果物やヨーグルト等取り入れ排泄チェック表を下に運動にも心がけて参加促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	天然温泉であり利用者も喜んで入浴されている。入浴されない方には暖かい清拭タオルで清潔保持に努めている。入浴後は酸性水のかかり湯を提供している。	天然温泉が楽しめるホームの入浴は、月曜から土曜まで午後を中心に支援している。広めの浴室であり、室温管理には十分配慮している。また、かかり湯に使用する酸性水の温度も適温を保ち使用している。5月には菖蒲を湯に入れたり頭に巻くなど、昔ながら慣習を楽しまれている。	冬至に使用する柚子も購入に限らず地域柄、差し入れなどを活用することも話題につながり、よりゆず湯を楽しめると思われる。無理のない範囲で検討いただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせ室内の温度管理し、寝具やパジャマの取り換え等も家族の協力を得て、出来ている。毎週日曜日はリネン・パジャマ等の洗濯、乾燥して清潔にし気持ちよく休まれるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は2名が責任もって仕分けし内服に変化があった場合全、員に申し送り徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い等も役割分担し楽しみのある時間が過ごせている。体操・カラオケ・ゲームなど季節に合わせて外気浴・外出、出来、嗜好品購入も家族の協力で出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に外気浴・外出・ドライブ参加に努めているが天候不順にて外出が少なくなっている。	菜園の管理や敷地内の散歩など入居者の状況に応じて身近な外出の機会を持っている。また、弁当を購入して地域の神社での桜見物のほか、アジサイ、コスモスなどの花見やホームセンターで花や植物の見学も好評のようである。正月や盆の日帰り帰省、墓参、法要、外食など家族の協力が得られている。フードフェスタやいちご狩りなど地域への外出も情報を得ながら取組んでいる。	地域スーパーでの衣料品購入への外出は、現在は少なくなっているようである。女性入居者にとっては、楽しみな外出と思われ、今後の計画の中に取り入れられることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来られる利用者は御こずかいを所持され、購入希望時は使用され、入出の状況は家族へ確認頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにお住いの知人からの手紙・電話は職員を通し代読しているが、お電話での話は少なくなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのTVの前のソファで過ごされる事が多く季節の花を飾ったり、緑の観葉植物で目から柔らかな刺激を受けられ居心地よい空間にしている。壁に季節ごとに写真を貼っていて、それを楽しみに見ておられる。	リビングや廊下など飾り付けを施し、入居者が楽しみながら過ごせる環境を作っている。また、敷地内に咲いた花や職員が持ち寄った草花からも季節を感じることができる。以前、冬場はリビングにコタツを備えていたが、現在は安全面に配慮してソファの配置に変更されている。職員は日々の掃除に努めているが、年1回、家族会の活動として、窓ふきの協力が継続して行われている。	掲示物や飾り物など経年とともに損傷なども見られることから、今後は定期的な見直しの機会を持つことも必要と思われる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルで気の合った方たちで話されたり自室で寛がれたり、玄関で寛がれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は使い慣れた家具や寝具、小物設置し、面会時、家族も衣類整理のお手伝いされる。	入居時に配布するパンフレットの中に、使い慣れた寝具をはじめ、衣類などを記し、口頭で小物や写真など必要な品の持ち込みを依頼している。自身で使い勝手が良いよう物品の配置をされる方、家族が準備された手作りの漢字練習帳（30冊ほど）が重ねられた部屋、枕とクッションの配置を本人に合わせて家族がセッティングされた部屋も見られらた。クロゼットの中は広く、普段使用しない排泄用品や寝具、衣類などが収納されている。	面会時の衣類の整理や、季節に応じて寝具の持ち帰りなど家族の協力が得られている。今後も家族の協力や職員のサポートにより、本人にとって居心地よく過ごせる居室環境に努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は広々としたバリアフリーな空間になっておりレクレーションや活動が出来る様になっておりいつでも寛げるソファ、等準備している。		